

### 3 研究のまとめ

本研究では、小・中学校において、児童生徒の個人や集団の実態把握を基に、インターネット上のソーシャルスキル育成に係る活動案及びワークシート等の作成に取り組んできました。本研究を通して、研究目標に掲げた児童生徒の実態や発達の段階に応じたインターネット上のソーシャルスキル育成に関する活動プログラムを作成することにより、情報社会を生きる児童生徒のよりよい人間関係づくりについて提案することができたと考えます。

#### (1) 研究の成果

##### ○ インターネット上のソーシャルスキル育成に関する活動プログラムの作成

- ・授業前に実施したアンケート結果と児童生徒の現状（対面とインターネット上に通ずるコミュニケーションの視点）を参考にしながら、2つのターゲットスキルを選定し、それぞれ1時間の授業で取り組むことができる活動プログラムを作成することができました。
- ・現在、スマートフォンやタブレット端末の利用がない児童生徒がいたことや、学校で1人1台端末の整備が整っていない現状もあることから、タブレット端末の未所持でも理解ができ、活用できる手立てを考えました。紙のタブレットシートを作成したことで、全ての児童生徒が疑似体験をすることができ、一人一人の思考や活動が促進される教具の提案につながりました。
- ・言葉の裏側にある意図を読み取るためには、非言語的スキルの視点が重要になることを強調するために、授業導入時の連想ゲームを工夫しました。児童生徒が文字だけのやり取りでは十分な意思疎通が難しいことを実際に感じることで、活動内容の理解を深めることができました。

##### ○ インターネット上のソーシャルスキル育成に関する活動プログラムの有効性の確認

- ・児童生徒に対して、対面とインターネット上でのコミュニケーションは、異なる特性があることを理解させるとともに、相手の立場に立った思いやりのある行動は、インターネット上でも必要であるということを学ばせることができました。資料1、2のように、本実践はおおむね肯定的な評価を得ることができ、児童生徒に受け入れられたことがわかりました。

ことわり方のポイントを使えば、ことわられた相手も自分も、イヤな気持ちをしなくていいことがわかりました。私は、今まで「いいよ、おもしろいだけ」しか送ってなかったんで、次から気をつけたい。
メールなど、こまったことは、たくさんありました。でも、この学習で、相手を気持ちよく読めるようになったし、相手がいりやすく、読めやすくなるので、よかったです。それに、対コミュニケーションも高まりました。

資料1 児童生徒が記述した感想や気づき（1時目）

言葉の意味を正しく伝えたり、きちんとあやまったりしたらトラブルはふせけることかかった。1回目の練習より2回目の練習の方がポイントをたくさん使えた。これからの生活に生かしていきたいと思った。

この前学習した事が日常で使えてます(笑)  
 はのどトラブルになった時は今日学んだ事を活かします  
 でもやはり自分の口でいった方が便利だと実感しました。  
 とてもいいきっかけでした。ありがとうございました。

資料2 児童生徒が記述した感想や気づき（2時目）

(2) 課題と今後の展望

○ 情報モラル教育での活動プログラムの活用について

学習指導要領では、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」を「情報モラル」と定め、各教科の指導の中で身に付けさせることとなっています。「情報モラル」で必要とされる、児童生徒の生活体験に基づいた実態や問題点を取り上げ、迅速に指導するという点において、本研究の活動プログラムがその指導の一部を担うことは可能であると考えます。また、既にインターネットを利用している児童生徒へのインターネット上のソーシャルスキル育成はもちろん必要ですが、これから新たに利用していく初期段階の児童生徒に対しても必須であると考えます。

○ インターネット上のソーシャルスキル育成に関する継続的な取組について

本研究の活動プログラムは、インターネット上のソーシャルスキルを育成するためのトレーニングです。ソーシャルスキル・トレーニングの効果としては、教師の観察、児童生徒の自己評価、いずれにおいても実施後にソーシャルスキルの向上が見られました。一定の効果があるという結果を得たものの、課題は今後の効果の持続と、授業以外の場面での応用です。このような「般化」が、情報社会を生きる児童生徒にとって重要であるため、活動を継続的に取り入れていく必要があると考えます。